

令和4年 3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 東京都世田谷区太子堂1-7-57
管理機関名 学校法人 昭和女子大学
代表者名 理事長 坂東 真理子

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年 4月 10日(契約締結日) ～ 令和4年 3月 31日

2 指定校名・類型

学校名 昭和女子大学附属昭和高等学校
学校長名 真下 峯子
類型 グローカル型

3 研究開発名

「都市型社会課題への発信力を育成するクロスサービスラーニングプログラム」

4 研究開発概要

本校では「世の光となる」「Think global, Act local」を合言葉に、様々な課題を世界規模で考え、地域規模で実践していくグローバルな人材の育成を進めてきた。それをもとに、本事業では育成するグローバル人材像・人物像を、

①「『SDGs』・『都市型社会課題』への関わりを軸に、グローバルな視点とローカルな視点を備えた世の光となれるグローバル人材」

②「他者との協働を通じて、主体的に課題の解決に向かう責任感と意欲あふれる人材」とし、「世田谷研究(世田研)」、「グローバルサーチ」、「LABO研究」、「サービスラーニング」、「キャリアビジョン」の段階的なプログラムを通じて、他者との協働のなかで持続可能な共生社会の実現に向けたアクションプランを提案するグローバル人材の育成をめざすことを目標とする。

活動の主軸となるのは地域型探究学習プログラムである「LABO研究」「サービスラーニング」で、地域活動やボランティアへの参加、企業・商店街との連携、社会への提言などを実践の舞台として、世田谷区が抱えている都市型の社会課題や、ジェンダーなどのグローバルな課題の解決策提案をめざす活動である。「LABO研究」はグローバルな社会課題をテーマとするグローバル課題解決を志向する研究、サービスラーニングは世田谷区の抱える課題を解

決するローカルを志向する活動として位置づけ、生徒は「LABO 研究」「サービスマーケティング」のどちらかを選択（LABO 研究は選抜制）して探究活動を行う。

この活動に、ローカルとグローバルの両視点を加えることで、グローバルな視点で課題解決の実践に取り組める人材の育成につなげるのが本プログラムの構想である。地域の魅力や課題を探る「世田谷研究」を通じて、地域課題解決に必要な知見や方法論を学びながら地域の課題を自分事として捉えることのできる「ローカルの視座」を育む。また、海外フィールドワークである選択制国内外研修旅行と、その事前事後の調査学習（「グローバルサーチ」）によって、海外での知見やSDGsへの理解などの視野を広げて考察ができる「グローバルの視座」を育む。地域課題解決型探究学習にグローバルな視座とローカルな視座を交錯（クロス）させて思考を深めることによって、体験に基づく学びや課題意識、広い視野に目を向けた考え方を、地域的な視点・課題意識で再構成させていくようにする。このクロス化によって、より広く深い視野をもった実践的な学びを構築し、グローバルな視点で課題解決の実践に取り組める人材の育成につなげることができると考える。さらに、高校3年次に「キャリアビジョン」の時間を設定し、探究での学びを活かして将来像を描く活動を行う。3年間の系統的な探究のカリキュラムを構築し、生徒自身が主体性をもって世の光となろうとする人材を育成する系統的な探究学習プログラムである。

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
岩本 康	世田谷区 副区長	行政機関
宮崎健二	公益財団法人世田谷産業振興公社 副理事長	協力機関
興梶 寛	社会福祉法人世田谷ボランティア協会 理事	学識経験者

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
公益財団法人 世田谷区産業振興公社	宮崎健二 副理事長
社会福祉法人 世田谷ボランティア協会	興梶 寛 理事
世田谷区 生活文化部 まちづくり推進係	石井貴和 係長
世田谷区 経済産業部 産業連携交流推進係	佐藤智和 係長
三軒茶屋銀座商店街振興組合	飯島祥夫 理事長

8 カリキュラム開発専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	會川恵志	昭和女子大学附属昭和高等学校	非常勤
地域協働学習支援員	大久保舜海 石綿紅里	世田谷区 環境政策部環境計画課	
〃	青木千穂 椎名和美	世田谷区 子ども・若者部子ども家庭課	
〃	太田和信也 仲田啓太	世田谷区 清掃・リサイクル部事業課	
〃	小林和弘	東京都動物愛護相談センター	

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程							
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアム構築	世田谷区・世田谷区産業振興公社 と相談・運営指導委員を選出			地域協働学習支援員 協力依頼・出前授業				
コンソーシアム運営指導委員会							実施	
公開講座の実施				独立行政法人国際協力機構と 海外支援の関する講演を計画			実施	

(2) 実績の説明

- ① 世田谷区と世田谷区産業振興公社に運営指導委員会への参加を依頼。副区長など構成メンバーを選出した。
 - ・7/21（水） 訪問先：世田谷区 岩本 康 副区長
場所：世田谷区役所第1庁舎3階 副区長室
目的：運営指導委員への就任依頼
 - ・9/29（水） 訪問先：公益財団法人世田谷区産業振興公社小田桐庸文 常任理事
場所：世田谷区産業振興公社
目的：地域学習支援員の推薦・調整
 - ・10/5（火） 訪問先：東京都動物愛護相談センター 業務担当 小林和弘 氏
場所：東京都動物愛護相談センター
目的：講演会講師依頼
 - ・10/7（木） 訪問先：世田谷区 環境政策部 清水優子 部長
場所：世田谷区 二子玉川分庁舎
目的：地域学習支援員派遣依頼
 - ・10/8（金） 訪問先：世田谷区子ども・若者部子ども家庭課 中西明子 課長
子ども・子育て支援担当係 青木千穂 係長
場所：世田谷区第1庁舎5階
目的：地域学習支援員派遣依頼
 - ・11/17（水） 訪問先：公益財団法人 世田谷区産業振興公社 宮崎健二 副理事長
小田桐庸文 常任理事
場所：世田谷区産業振興公社
目的：人事異動に伴う委員変更・就任依頼
- ② 運営指導委員会は令和4年2月22日に実施した。
- ③ アンケート調査結果に基づき、生徒が関心を持つ地域課題を抽出。4つのカテゴリーに分類し、世田谷区から地域協働学習支援員の推薦を受けた。
- ④ 各支援と面談し、本事業の目的を説明。カテゴリー別の講演とサービ斯拉ーニングの指導を依頼した。
- ⑤ 令和3年10月26日には地域協働学習支援員を招聘して以下のテーマで出前授業を行った。
 - テーマ「インフラ」 世田谷区の住み良い『まち』づくり（環境・交通・防犯・観光）
 - テーマ「こども」 世田谷区の子育て支援の取り組みと高校生にできること
 - テーマ「食」 世田谷区の問題について（ゴミ・フードロス）
 - テーマ「動物愛護」 東京都の動物愛護の取り組みと高校生にできること

⑥ 海外研修を実施できないため、紛争地で人道支援活動を行った JICA 関係者による講演会を令和 4 年 1 月 25 日にオンラインで行った。

テーマ 1 看護師・助産師として海外協力隊員で活動して身につけた力

テーマ 2 海外協力隊員として活動して身につけた力 ～途上国支援の視点から～

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ローカルプログラム ・世田谷研究 ・サービスラーニング	← 世田谷研究(高1) →			← サービスラーニング(高2) →			← サービスラーニング(高1) →			← →		
グローバルプログラム ・LABO 研究	← →			← →			← 企業訪問・地域訪問 →			← 講演 →		
高3 進路探究 ・Showa Career Vision	← 学びの履歴書 →			← →			← SDGs 課題 →			← →		

(2) 実績の説明

① ローカルプログラム

ー1. 高校1年前期：世田谷研究

地域探究基礎として、地域の魅力や課題を知るためのフィールドワークを実施。地域の魅力や課題について、自らの関心に基づいてテーマを設定し、地域実地調査やヒアリングを通じて、課題研究の手法・スキルを育成するとともに、後期からの提案型探究(サービスラーニング)に応用していけるよう、地域と自己を結び付け、地域理解を促進するための活動として位置づけた。

テーマ	訪問先の例 (2021 年度)	生徒延人数
介護	ホスピア三軒茶屋 (高齢者介護施設)	5 名
子ども教育	世田谷区子ども家庭支援課、Pista 子ども食堂三軒茶屋、世田谷保育園	50 名
街づくり	エコプラザ用賀、駒沢オリンピック公園、世田谷区みどり 33 推進担当部	95 名
商店街	下北沢一番街商店街、プーランジェリーボヌール (製パン)	22 名
動物愛護	東京都動物愛護相談センター、犬猫譲渡センター保護犬猫カフェ	12 名

ー2. 高校1年後期：サービスラーニング (地域課題の把握と設定)

ボランティアを通じた地域課題の発見・把握と現状の把握を行い、自分たちが解決すべき課題を検討し、具体化する活動が 1 年の段階となる。コンソーシアムを活用してボランティア活動先・訪問調査先の開拓を進めた。

テーマ	おもな活動/ボランティア先・調査活動先の例 (2021 年度)	生徒人数
子ども教育	地域での子育て支援、子ども食堂、コロナ下のストレス軽減、子どもの外遊び 深沢児童館、昭和こども園、池尻児童館、Pista 子ども食堂、若林子ども食堂、東京育成園、世田谷区児童相談所、せたがや虹の子保育園	38 名
インフラ・防犯	高齢者の暮らしやすい街、世田谷の治安、世田谷の観光客増加策 ホスピア三軒茶屋、三宿つくしんぼホーム、桜新町商店街、東急電鉄株式会社	16 名
環境・福祉	バリアフリー、きれいな世田谷の実現 世田谷区道路・交通計画部、ホスピア三軒茶屋、世田谷プラスチックプロジェクト、千歳清掃工場	21 名

食	フードドライブ活動、世田谷野菜 PR、世田谷商店の活性化、コンビニの食品ロスエコプラザ用賀、リサイクル千歳台、世田谷区清掃・リサイクル部、駒澤オリンピック公園、ファーマーズマーケット、次大夫堀公園里山農園	19名
動物愛護	捨て猫・捨て犬ゼロ活動、殺処分ゼロに向けた PR 東京都動物愛護相談センター、動物福祉団体 Pauer、犬猫食堂	12名

ー3. 高校2年：サービスラーニング（地域での実践）

地域が抱える課題の解決に向けて、地域と協働してアクションプランを計画・実施を行う活動が2年の段階となる。コンソーシアムを活用して関係を構築した地域の団体と協働してプランの提案・実施を行う。

テーマ	おもな活動／協働先・活動先の例（2021年度）	生徒人数
子ども教育	子ども食堂の取組み、スマホと SNS に潜む危険、子どもの体力低下、待機児童対策 世田谷区子ども家庭支援課、子ども食堂 虹ハル、世田谷区二子玉川小学校、池尻児童館、おでかけひろば SHIP、ドナルド・マクドナルドハウスせたがや、東京育成園、メリーレディースクリニック、いば小児科	51名
街づくり	桜新町商店街活性化、三軒茶屋地域活性 PR 三軒茶屋銀座商店街、桜新町商店街、世田谷区産業振興公社	13名
多文化共生	外国人差別をなくす、外国人の住みやすい生活 昭和女子大学国際交流センター、甘味処甘寛	8名
その他	動物愛護の未来、食品ロス問題 世田谷保健所、プラットホーム世田谷、NPO 犬猫譲渡センター、昭和女子大学附属昭和小学校、学生ボランティア企画団体 NUTS	18名

② グローバルプログラム

ー1. LABO 研究

SDGs の理念を軸に、キャリアデザインに資するより深いまたはより広い国際的課題から4つの研究テーマをとりあげ課題研究を行う。1年2年混合で4つの LABO に分かれ、企業や大学教員が指導を担当し、コミュニケーション力や多面的視点など、総合的な素養を育む。

◆LABO アドバイザー

LABO1 日比谷武上智大学特任教授／LABO2 伊藤純昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科教授／LABO3 米倉雪子昭和女子大学国際学部国際学科准教授／LABO4 興柁寛アクティブ・シティズンシップ研究所(ALEC)代表

LABO	活動日	主な協働先・活動先（2021年度）
LABO1	4月～3月 10月31日	日比谷武 LABO アドバイザーによる講義（4/1,5/18,6/8,7/9,10/19,11/30,1/25,3/16） サステナブル・ブランド国際会議 2022 第2回 SB Student Ambassador ブロック大会 参加
LABO2	4月～3月 6月29日 12月17日 12月19日	伊藤純 LABO アドバイザーによる講義（4/27,5/18,6/1,10/12・19・21・26・28,3/1） 「駒場東邦 PJ」担当大学生講演（ZOOM） 海城高校生徒とのディベート 2021年度 全国高校生フォーラム
LABO3	4月～3月 8月18日 10月22日 10月30日 10月31日 12月11日 1月8日	米倉雪子 LABO アドバイザーによる講義（4/27,5/18,6/8,8/23,10/22・30・31,12/11,1/11,3/1） 株式会社友成工芸 友成哲郎氏 講演「カンボジアの現状と技術支援」 POPOK 大路絢子氏 講演会 スヴァイチェイク・オーガニック・ファーム、アンコール・クッキー創業者 カンボジアの高校生との ZOOM 交流会 クラタベッパー 倉田浩伸氏 講演会 グローバル・SGH5校合同 カンボジア研修合同研修会（オンライン）
LABO4	4月～3月 7月17日	興柁寛 LABO アドバイザーによる講義（5/12,6/23,7/17,9/29,10/20,11/24,12/17,1/12,3/19） 伊能さくら氏講演会

ー2. SDGs 講演会

2021年1月25日 JICA 国際協力出前講座

児玉久美氏（元シニア海外ボランティア隊員）

大橋恵美氏（元青年海外協力隊員）

③ その他の活動

ー1. 進路探究「Showa Career Vision」 高校3年生

これまでの自身の経験や学びをまとめ、自己のキャリアデザインを作成していく活動として、高校3年次に実施。世の光となれる自身の将来像を思い描き、そこに到達するために踏みべきキャリアステップを「学びの履歴書」「学びの設計書」の作成を通じて描いた。また、SDGsの国際課題も含めた絶対的な正解のない課題に取り組む「非認知スキル育成プログラム」を実施し、本人の強みや改善点などを認識できるようにした。

実施期間	活動（2021年度）	生徒人数
前期	学びの履歴書・設計書作成、APと進路について など	184名
後期	SDGsカリキュラム（ディベートなど）	184名

ー2. 教科横断型授業

今年度は高校1年生で教科横断型の授業を実施した。海外研修が中止となった期間（2021年12月）に設定し、「自分の意見を持つ、データ・資料分析、パフォーマンス（発表）」など探究スキルの育成に通じるテーマで授業を実施した。

	授業テーマ（タイトル）	授業内容
1	数字を読んで小論文を書こう	論理的な文章を書くために、論拠となる数字を如何に使うか、COP26を取り巻く数字を使いながら環境問題について小論文を書き上げる。
2	オリンピック・パラリンピックの歴史から2020東京オリンピック・パラリンピックを振り返ろう！	今年・過去のオリパラから、戦争や冷戦などが原因となって開催を中止したり、出場を辞めた経緯がある国があったりしたことを学び、オリンピックが政治と絡んでいる事実を学ぶ。また、そのことに関する人々の意見を日本国内だけでなく、海外の意見にも耳を傾けることで、様々な価値観に触れ、自分の意見を見つけ、主張する。
3	運動負荷による心拍数の変化と恒常性	運動すると心拍数が上昇しますが、しばらくすると元の心拍数に戻っていきます。この授業では5分間の全力疾走前後で心拍数がどのように変化するのか、そして、運動後どのように心拍数が回復していくのかを計測・可視化し体感します。5分間の全力疾走は3回以上行い、複数回のデータを取得し、データの比較も行った。
4	江戸時代の文学	江戸時代の文学作品を読み、当時の情勢や流行などを分析する。江戸時代まで主流であった崩し字の読み方を練習することで、中世文学作品・資料の原典へのアプローチができるようになる。
5	ポエトリーリーディング ～英詩の朗読会～	ビート・ジェネレーションが形成したポエトリーリーディングの文化を再現する。空間をデザインし、英語の詩をどう読むかを考え、意味にとらわれずに「音」や「発声」という楽しみに触れることで、言語文化への理解を深める。英文の朗読あり。人前でのパフォーマンスあり。
6	ラブレターを読み取られるな！	インターネットを用いた通信をベースに、第三者が通信を盗み見することが可能な状況で、どうやって送信者と受信者だけが内容を理解できるように通信を行うかを学習し、数学の有用性を感じてもらうことを目的とする。

その他、中学1年でもシンガポール研修の準備学習として、英語・社会・理科による横断型学習を実施した。

④ 事業の評価

探究効果検証のため、高校2年生が2年間の探究活動における6つの育成スキルと5つの行動目標について自己評価を行った。6スキル・5行動目標を生徒の成長把握の因子として活用した。

また、株式会社リバネスが実施している探究活動調査に参加して探究活動および学校活動について質問法による自己評価を実施した。この評価において中学生と高校生に実施し、知的関心や探究への姿勢などの指標で、中学段階との成長度合いの違いを比較した。

6スキル	「受け取る力」 ...聞く力、観察力、自己理解 「見つける力」 ...課題発見力、発想力、創造力、自己の強みを見つける力 「考える力」 ...論理的思考力、問う力、課題解決力、多面的視野 「つながる力」 ...仲間との協働、地域との協働、世界とのつながり、考えと考えをつなぐ 「伝える力」 ...プレゼン力、質問力、発信力 「より良くなる力」 ...挑戦力、向上心、価値を学ぶ力、キャリアデザイン力
5行動目標	「自己を知り、アイデンティティを確立しようとする」 「世界や地域のできごとに関心を持ち、考えを表現しようとする」 「失敗を恐れずチャレンジしようとする」 「責任感を持ち、リーダーシップを発揮しようとする」 「多様性を認め、寛容な他者理解の心をもつ」

⑤ 成果の公表・普及

- ・サステナブル・ブランド国際会議 2022 ブロック大会（令和3年10月31日）参加
- ・オンライン文化祭（令和3年11月14日）でLABO研究の成果報告を配信。協力いただいた地域団体・グローバル指定校・アソシエイト校に通知
- ・2021年度 全国高校生フォーラム（令和3年12月19日）にLABO2が参加。
- ・SGH・グローバル等カンボジア合同研究会（令和4年1月9日 和歌山信愛高等学校の主催でオンライン開催）
- ・文部科学省主催「全国高校生フォーラム」（令和4年1月25日）オンライン発表会に参加。本校は協力校として生徒がBグループの司会を担当した。
- ・総合的な探究全校発表会（グローバル探究成果発表会）（令和4年2月18日）LABO研究成果発表・サービスラーニング代表グループによる成果発表
- ・グローバル探究成果発表会（令和4年2月22日）コンソーシアム関係者、区民などを招待しサービスラーニングの成果報告をオンラインにて開催。

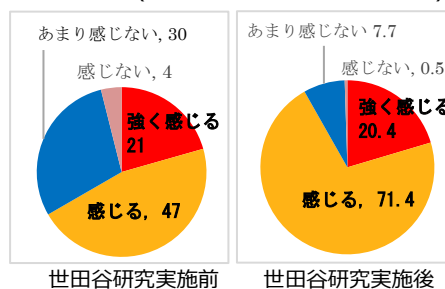
1.1. 目標の進捗状況， 成果， 評価

〈目標1〉 いま世田谷区が直面する課題に敏感になり社会的・倫理的責任感、人間性を育成し、コミュニティと積極的に関わろうとする人材を育成する。

- ・地域協働学習実施支援員の協力、コンソーシアムによる活動先・人材の開拓・支援体制の確立により、地域での活動を充実させた結果、サービスラーニングでは新型コロナウイルス感染状況拡大の中でも、地域活動やボランティアが実施できた。

- ・世田谷研究を高校1年前期に設置したことで、サービスラーニング開始時の地域への関心度について肯定的な解答率が68%から91.8%と飛躍的に高まった(右図参照)。区外からの生徒が多い本校ではいかに生徒の関心を世田谷区に向けていくかが課題だったが、生徒の地域への関心拡大に成果を見出すことができた。

Q.世田谷区で起きているできごとに興味を持っていますか。(サービスラーニングプレアンケートより)



(株)リバネスによる調査の該当項目は以下の通り。

指標	中学	高校
積極的・外向的な行動をとる	18.4%	35.6%
分かった事や発見した事が、どんな人や問題の解決に役立つか考える	38.6%	51.9%
学校内外の人の力や知識を借りる	36.9%	53.1%

- 今年度は事業対象生徒の100%が地域での活動に参加した。活動開始時から比較すると、目標1に関わる「リーダーシップ」や「地域への関心」「つながる」の指標で増加が見られた。LABO研究ではコロナ禍で地域での活動に重点化した2021年の指標が大きく増加した。

〈目標2〉 社会的な人材育成を行う探究活動プログラムを体系的に構築し、論理的に物事を考える能力を育成する。

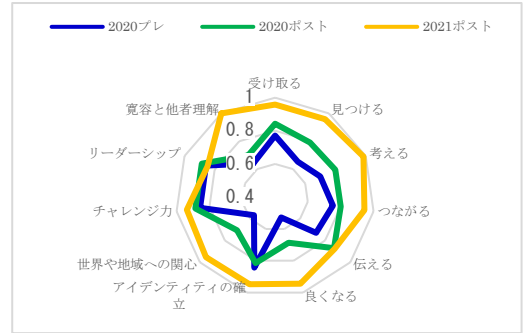
(株)リバネスによる調査の該当項目は以下の通り。

指標	中学	高校
問いを立てたり、自分が明らかにしたいことが何かを見つける。	35.7%	52.7%
独創性のある自分ならではのアイデアを考える。	35.3%	49.7%
分かったことや発見したことをわかる安く発表する。	36.2%	48.7%

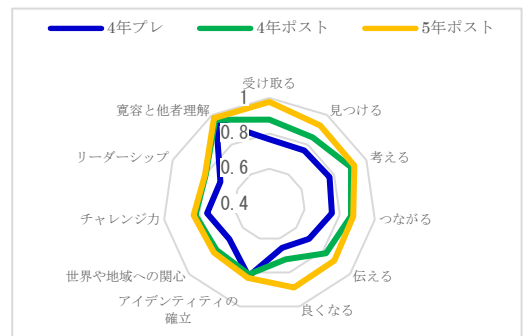
- 活動開始時から比較すると、目標2に関わる「見つける」「考える」「つながる」「伝える」の指標でいずれも増加が見られた。中高6年間での段階的な資質・能力開発のための系統的な探究プログラムを開発した。高校では2年間で探究のサイクルを2回以上回せるよう教材・テキストを作成し、座学の活動として進めた成果だと考える。

〈目標3〉 グローバルな取り組みと地域探究など諸活動をクロス化させることによって探究活動の質の高度化をはかり、総合的な学ぶ力を育成する。

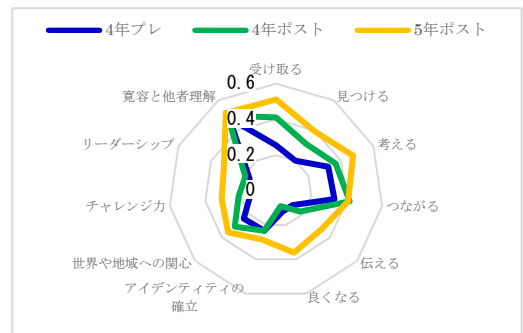
- SDGsや探究スキル開発を軸として進める探究活動と各教科との内容・方法を横断する授業は、海外研修実施時には、社会科の「SDGs 開発教育実践集」をもとに、中学でも実施して中高の活動のクロス化を進めた。今年度は高校1年で大規模に実施することができた。
- LABO研究ではコンソーシアムと連携して世田谷区内での提言や実践、企業・団体訪問など重点化し活動に取り組んだ。因子分析を見ると、LABOの地域への関心度を大いに向上している。実践例としてはLABO2で活動の成果物（ジェンダーかるた）の改善・普及を行った。



LABO 肯定的評価の経年変化



高2 SL 肯定的評価の経年変化



高2 SL 強い肯定評価の経年変化

〈目標4〉生徒の中に、地域のためにより有益な行動をしようとする意識を涵養していくために、恒常的な産官学連携・地域連携コンソーシアムを形成する。

- ・サービ斯拉ーニングでは、地域協働学習実施支援員の強化によって、コロナ禍であってもボランティア活動や地域での活動を世田谷区内で実施することができた。生徒が何らかのポイントをとりボランティアや活動実践に協力いただいた区の団体数は下の表の通りで、コンソーシアムによる活動先の紹介、探究活動の体系的なカリキュラムが確定するにつれ大幅に増加し目標値を大きく超えることができた。

指標	2019年度	2020年度	2021年度	目標
地域での活動参加・実践協力団体数	59人	16団体	85団体	10団体

〈添付資料〉目標設定シート

1.2.3 3年間の研究開発を終えて次年度以降の課題及び改善点

(1) 教育課程の研究開発の状況とコンソーシアム運用

高1前期に世田谷区を知る調査研究基礎、高3で活動から得た学びを振り返りキャリアデザインを構築する進路探究を配置し、教材開発を行った。地域の課題への理解促進と地域課題の自分事化によって、自分の将来につなげていく流れができ、3年間を無駄なく用いた系統的な探究プログラムを構築することができた。

コンソーシアムの人材開拓力を生かした地域の人材の掘り起こしを進め、生徒の地域意識の醸成、ローカルへの志向性を高めることができた。生徒と地域との活動のマッチング、活動考案のためのアイデアシェア、活動実践のためのコンサルティングを緊密な連携の下で進めることができた。また他高校や大学・外部団体との連携、特に区内の団体との連携数は飛躍的に増加し、課題研究の実践や助言、評価等に多数の外部人材が参画するようになった。

今年度も併設大学の企画による高大連携の取組みを実施したが、今後もその方向性で大学の協力を求めるとともに、大学のサービ斯拉ーニング専門施設(コミュニティサービ斯拉ーニングセンター)を高校生向けに開放し、活動先の充実の役立てる取組みも進めたい。

一方で、授業のあり方については、教科横断型授業開発やSDGs開発授業等を実施したものの、海外研修が中止となったこともあり、学校全体の取組みという点では不十分な部分があった。講義形式の授業もまだまだ多く、探究とリンクする生徒の主体的・対話的な深い学び合いを促す授業の実施を働きかけることによって探究活動への理解と授業観の転換を進めていきたい。

(2) 生徒の変化

本事業の構想では、「『社会課題』への関わりを軸に、グローバルな視点とローカルな視点を備えた世の光となれるグローバル人材」、「他者との協働を通じて、主体的に課題の解決に向かう責任感と意欲あふれる人材」と位置付け、段階的なプログラムを通じて、他者との協働、責任感、ローカル・グローバルへの視座、キャリアデザイン力等を育てることを目標にしてきた。各種指標からは、こうした力が伸長したことがうかがえる。

指標	高1プレ	高1ポスト	高2ポスト
より良くなる力(キャリアデザイン力・向上心など)	66%	72%	89%
世界や地域の出来事への関心を持つとする	70%	79%	81%
責任感を持ち、リーダーシップを発揮しようとする	70%	80%	80%

スキル指標・行動目標の指標を用いた自己評価は今後も継続的に活用し、生徒の学びが一過性のものにならないよう、今後も引き続き工夫したい。特に11の指標を用いた分析は、学年で成長できた部分、伸びが足りない部分が6年間同じ項目で把握できるため、継続的な運用は不可欠で

ある。

(3) 今後の課題・改善事項

① 校内体制の整備と拡充

教務部研究科主任を委員長とするプログラム開発チームを校内に組織。人材育成像と探究活動の企画・統括を担当した。組織内にG P担当（グローバルプログラム）とL P担当（ローカルプログラム）を配置し、各種プログラムの開発を行った。

本研究開発では、生徒の主体性・多様性・協働性、思考力・判断力・表現力といった「探究」活動に必要な能力を伸ばすため、国内外で様々な体験を積みながら社会の課題を発見し、自分で解決策を考えさせることを目標とした。全教員がこの育成像を共有し、各学年・各教科で身につけるべき能力を意識した指導をすることが重要と感じた。各教科の授業と探究活動の連携が必要で、校内におけるグローバル活動の位置づけが課題となった。

今後は各教科の科会、学年会を通じて全教職員が連携し、横断的かつ全校的なプログラム開発ができるように校内体制を充実させる。また、中高一貫校の特長を活かして中学3年生を導入期と定め、生徒の探究活動を充実させることも計画する。

さらに、多くの教員がG P・L P担当を担当して生徒指導を体験することで、実践から探究活動の意義と学習成果の向上を学べるようにプロジェクト活動を充実させたい。

② 継続的なコンソーシアムの運営

本事業で構築したコンソーシアムとの連携は継続する計画である。世田谷区と併設大学は包括協定を締結し、地域協働活動が盛んであるため、高校生の受け入れにも協力的である。

世田谷区は少子高齢化や環境問題など、現代的な課題を抱えている。このような解決の住民とともに取り組むことで、学んだ知識の活用法を体験的に学ぶことができると考えている。

区内には地域学習支援員となる専門職やN P O法人活動員など、人材も豊富である。生徒の関心に応じて様々な分野の支援員を用意できる。活動の充実には地域との協働が欠かせない。

また、本校はこども園、小学校、中学校、大学、大学院、ブリティッシュスクール、テンプル大学と同じキャンパス内に校舎が並んでいる。学校間で連携することで、グローバルプログラムをさらに発展させることが可能である。今後は学校間に協働プロジェクト活動も検討したい。

本事業で大学との連携を強化した。世界の動向や生活文化、途上国問題などを大学の研究者から学び、ソーシャルデザインの視点、地域活動法などの実践力も身につけることができた。

最近2年間はコロナ禍で中止となったが、大学教員や専門家が計画する海外研修・視察旅行も新たにプログラム化することができた。

高校教育に産学地域が加わることで、様々な可能性を拓けることが出来たと考えている。

一方で、高校は教室での授業が中心で地域との窓口がない。担当者または担当部署を配置することが急務である。グローバル活動と教科学習が連携できるように教務部内での担当が望ましいと考えている。校内組織体制の改善が必要である。

多様な人材を招聘して地域連携指導委員会を構築したため、世田谷区と私立学校の連携は難しくなかった。委員から世田谷区や世界の現代的課題を眞井、先進的な取組を知ることができた。

来年度以降の予算も計上しており、これまでの活動実績によりコンソーシアムは継続・発展できると確信している。

【担当者】

担当課	昭和女子大学附属昭和高等学校	TEL	03-3411-5115
氏名	勝間田 秀紀	FAX	03-3411-5532
職名	教諭（教務部教育研究主任）	e-mail	n-sgh@swu.ac.jp